



DataScientist Society

データサイエンティストをめぐる 環境の違い

〈一般ビジネスパーソン調査の日米比較〉

2023年9月12日

一般社団法人 データサイエンティスト協会

調査・研究委員会

調査概要

	日本（2023年）	アメリカ（2023年）	日本（2022年）
調査対象	日本国内在住の就労者（正社員or嘱託・契約・派遣社員、パート・バイトを除く）	アメリカ全土在住の就労者（正社員or嘱託・契約・派遣社員、パート・バイトを除く）	日本国内在住の就労者（正社員or嘱託・契約・派遣社員、パート・バイトを除く）
対象年齢	20～69歳	20～69歳	20～65歳
割当	性・年代で均等割り付け	性・年代で均等割り付け	性・年代等での割付を行わず回答順に足切り
年代構成	20代：20% 30代：20% 40代：20% 50代：20% 60代：20% 男女1:1	同左	20代：4.5% 30代：12.6% 40代：25.7% 50代：42.7% 60代：14.6% 男女76:24
回答者数	2,000人	1,000人	2,000人
実施日	2023年6月15日～20日	2023年6月15日～20日	2022年6月22日～23日
備考			2023年と比較のため、性・年代で均等割付して再集計

注：本調査資料の百分率表示は小数点以下を四捨五入しているため、合計しても100%とならない場合がございます。

目次

- 1 一般ビジネスパーソンの業務の満足度・将来性
- 2 データサイエンティストに対する認知・興味・イメージ
- 3 企業におけるデータサイエンティストの位置づけ
- 4 職場・業務におけるAIの導入
- 5 データサイエンティスト関連のスキル・資格の意識
- 6 まとめ

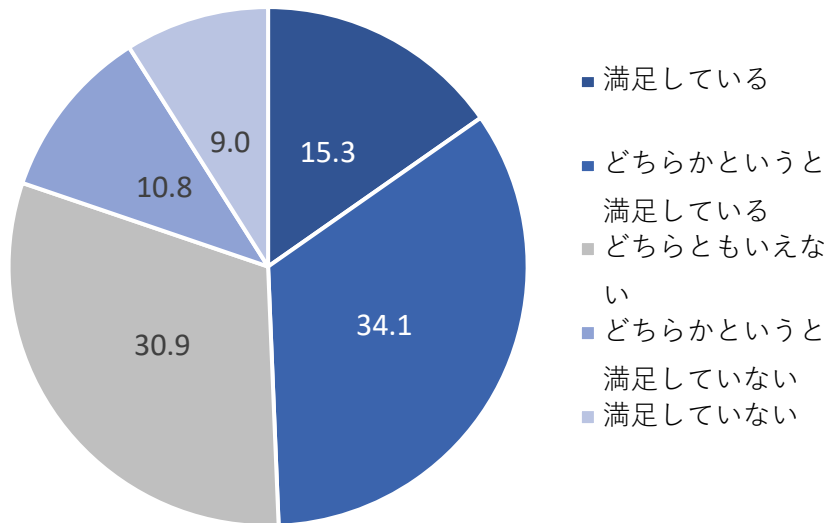
一般ビジネスパーソンの 業務の満足度・将来性

一般ビジネスパーソンの業務満足度

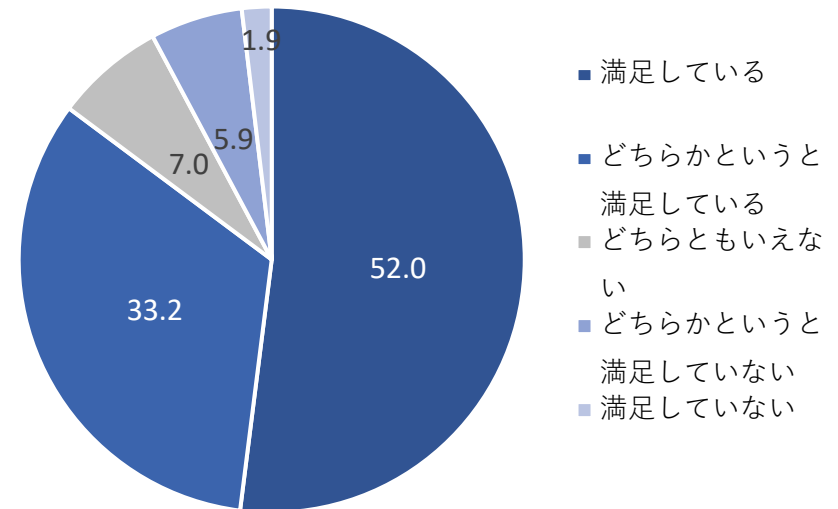
Q.あなたは、現在の業務に満足していますか。

**就労者の現在の業務に対する満足度は
日本：49.4%、アメリカ：85.2%**

《日本》



《アメリカ》

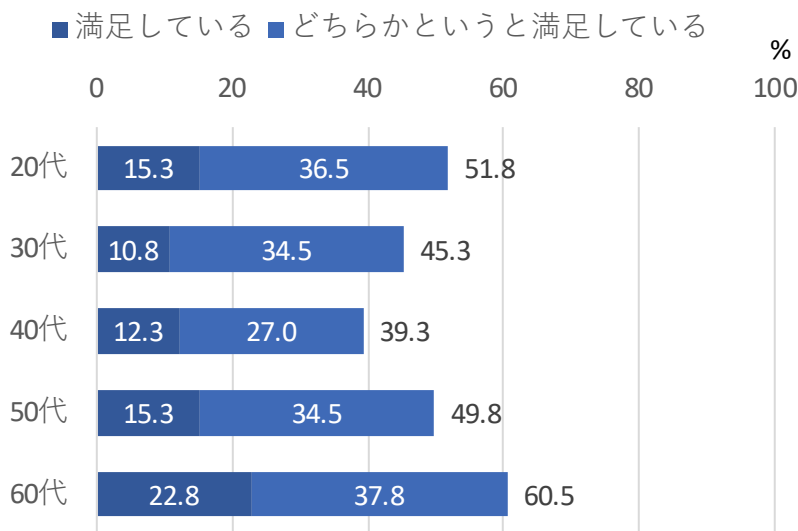


一般ビジネスパーソンの業務満足度（年代別）

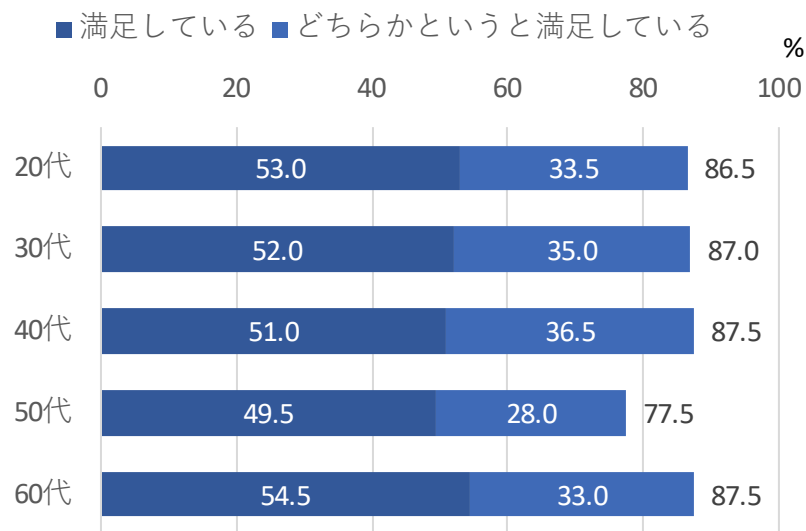
Q.あなたは、現在の業務に満足していますか。

**日本では40代における満足度が低い傾向にあり、
アメリカでは概ね全年代層で満足度が高い**

《日本》



《アメリカ》



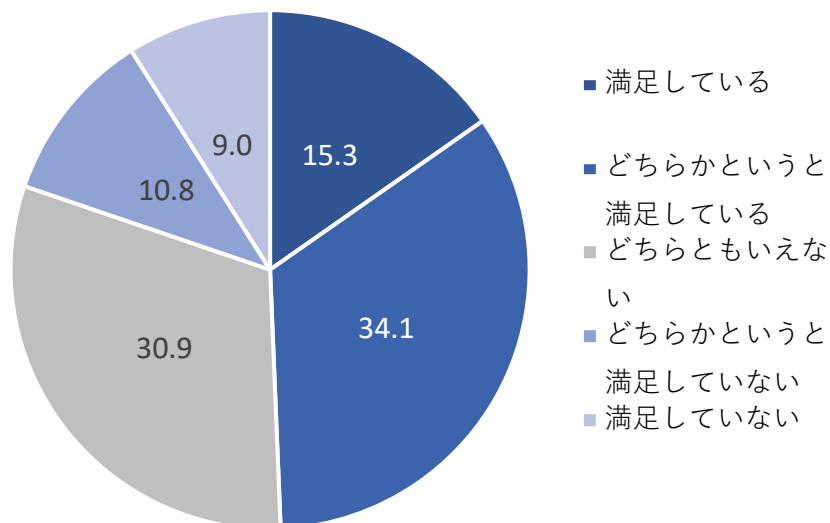
【参考】業務満足度（日本） 一般ビジネスパーソン vs データサイエンティスト

Q.あなたは、現在の業務に満足していますか。

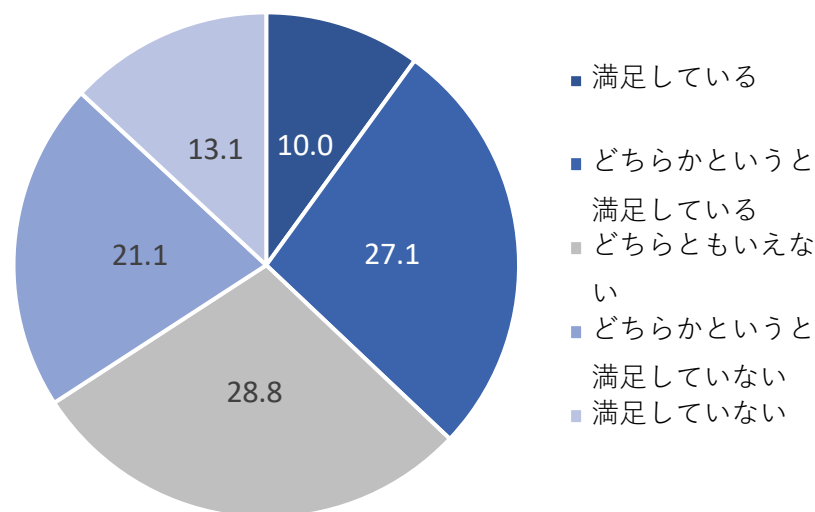
日本のデータサイエンティストの業務満足度は 一般ビジネスパーソンと比較するとやや低い

業務満足度（日本）

一般ビジネスパーソン



データサイエンティスト



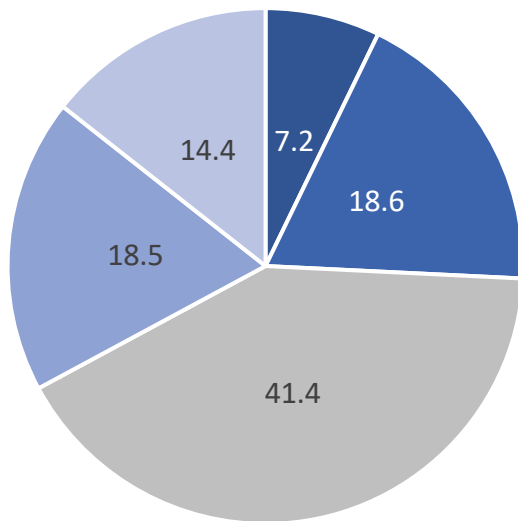
出所) データサイエンティスト協会 一般（個人）会員アンケート
2022年11月実施

一般ビジネスパーソンの業務将来性

Q.あなたは、現在の業務に「将来性」を感じますか。

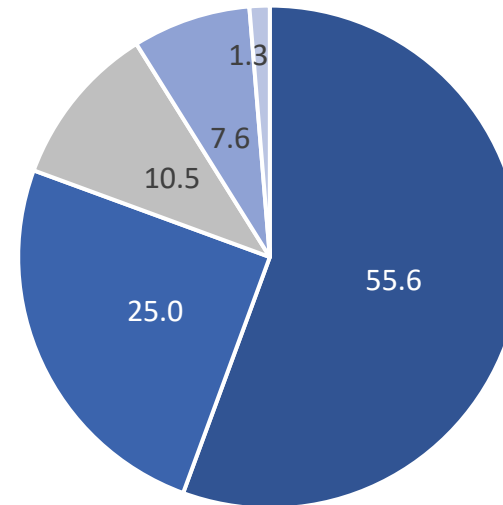
**就労者が現在の業務に将来性を感じている割合は
日本：25.8%、アメリカ：80.6%**

《日本》



- 将来性を感じる
- どちらかという将来性を感じる
- どちらともいえない
- どちらかという将来性を感じない
- 将来性を感じない

《アメリカ》



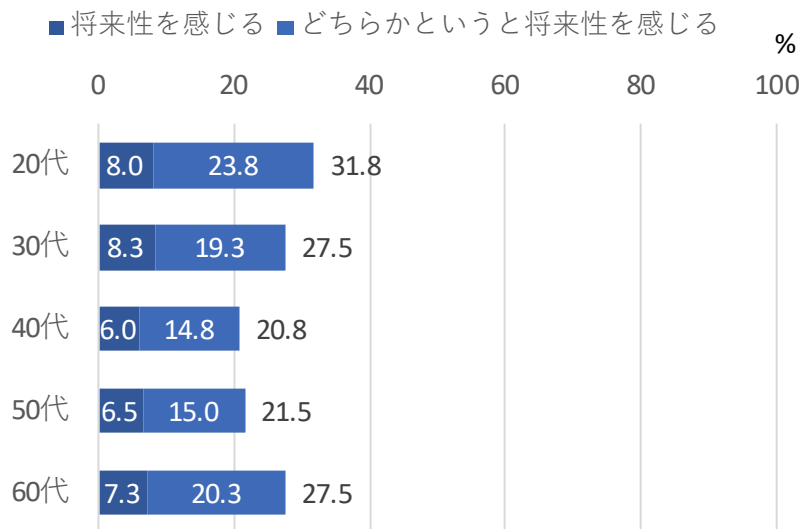
- 将来性を感じる
- どちらかという将来性を感じる
- どちらともいえない
- どちらかという将来性を感じない
- 将来性を感じない

一般ビジネスパーソンの業務将来性（年代別）

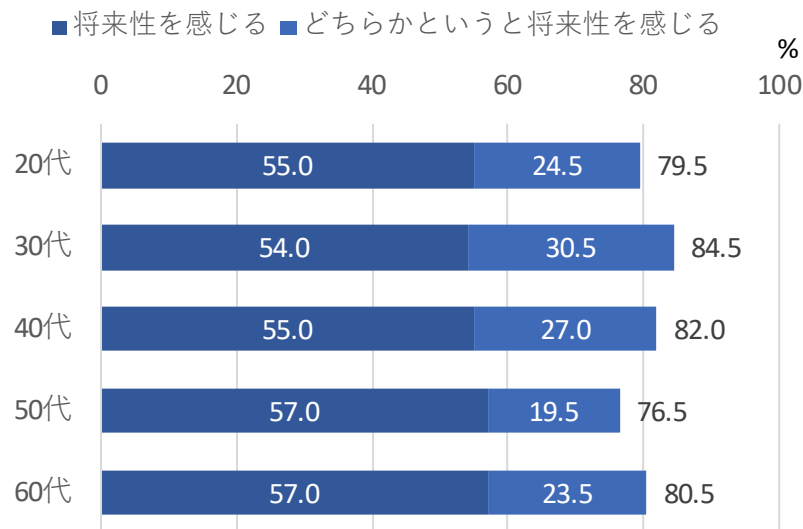
Q.あなたは、現在の業務に「将来性」を感じますか。

**日本では40代・50代の将来性が低く、20代では高いが、
アメリカでは概ね全年代層で将来性を感じている**

《日本》



《アメリカ》



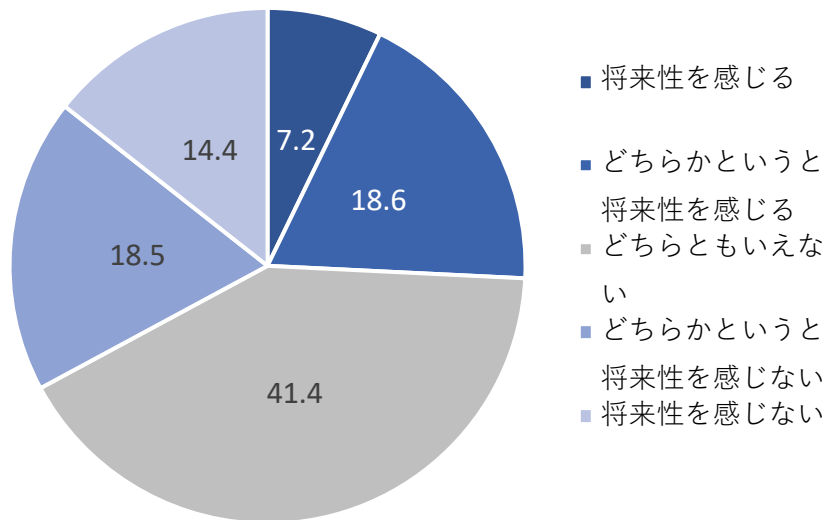
【参考】業務将来性（日本） 一般ビジネスパーソン vs データサイエンティスト

Q.あなたは、現在の業務に「将来性」を感じますか。

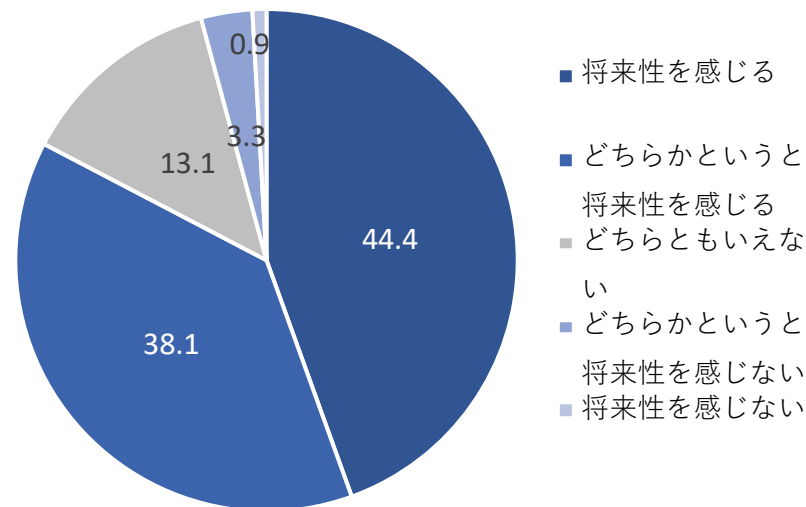
日本のデータサイエンティストの業務将来性は、 一般ビジネスパーソンと比較すると、非常に高い水準

業務将来性（日本）

一般ビジネスパーソン



データサイエンティスト



出所) データサイエンティスト協会 一般（個人）会員アンケート
2022年11月実施

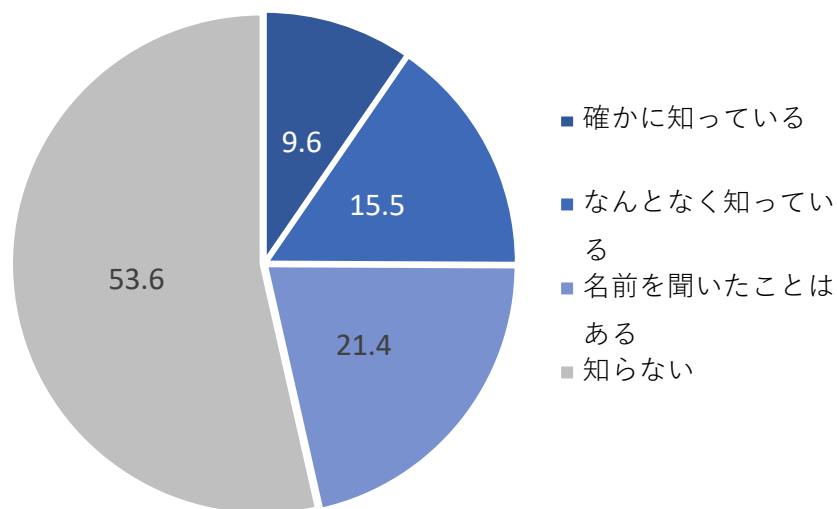
データサイエンティストに対する 認知・興味・イメージ

データサイエンティストの認知率

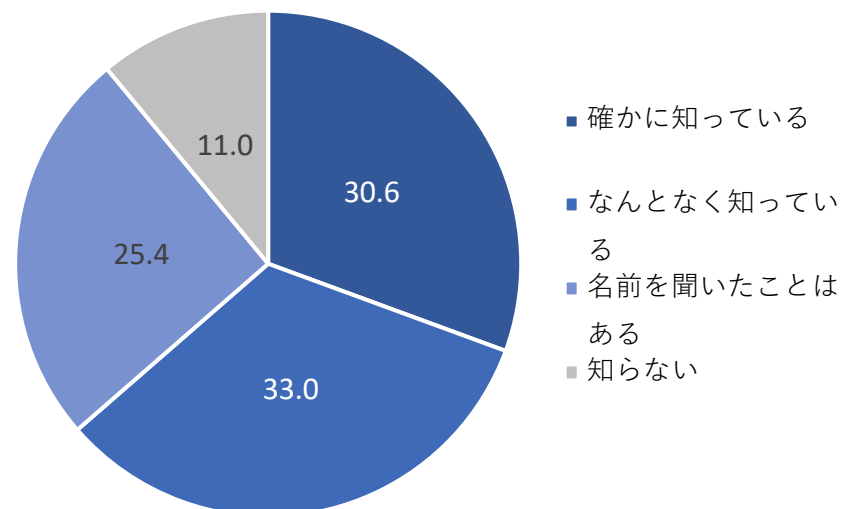
Q.あなたは、以下の職種を知っていますか。

**就労者がデータサイエンティストを知っている割合は
日本：25.1%、アメリカ：63.6%
(なんとなく知ってる以上)**

《日本》



《アメリカ》

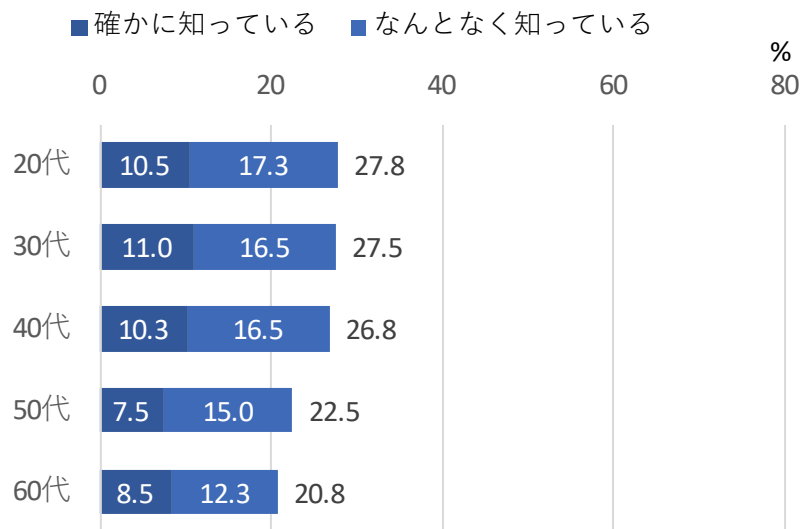


データサイエンティストの認知率（年代別）

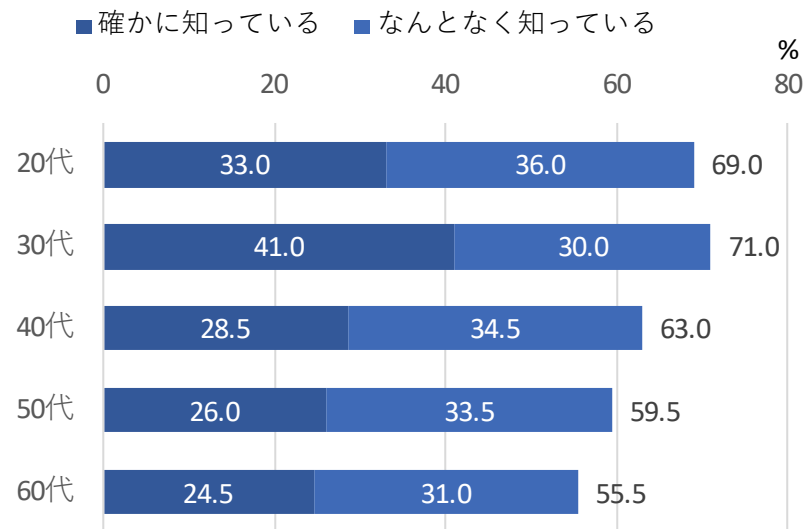
Q.あなたは、以下の職種を知っていますか。

日本、アメリカともに、20代・30代でデータサイエンティストの認知率が高い傾向

《日本》



《アメリカ》



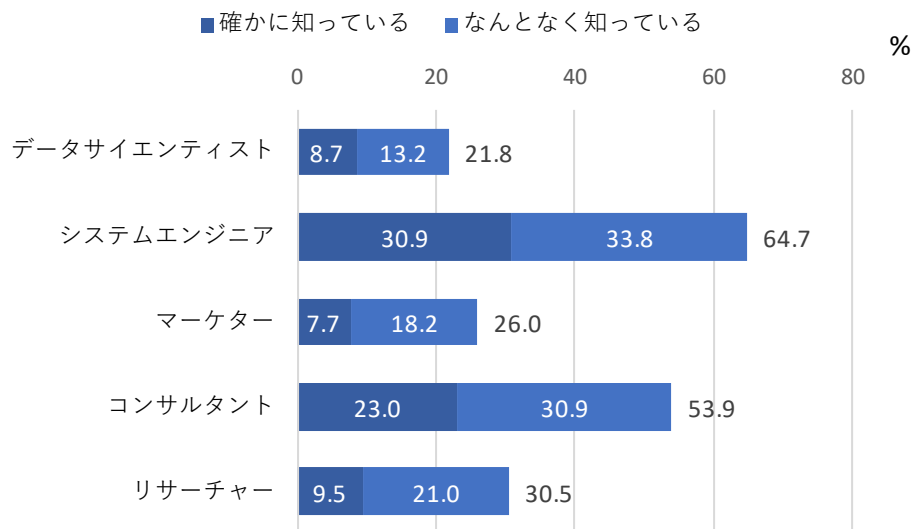
データサイエンティストの認知率 日本の時系列比較

Q.あなたは、以下の職種を知っていますか。

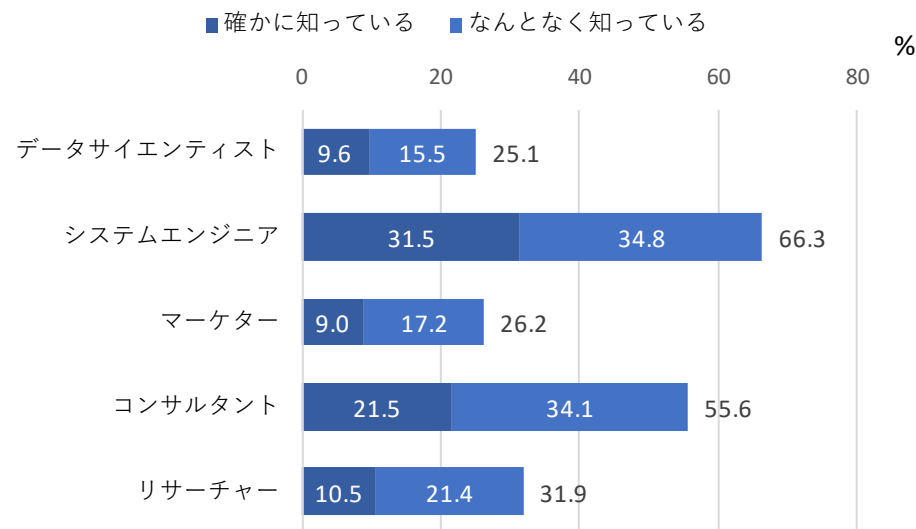
**日本における2022年から2023年の傾向をみると、
データサイエンティストの認知率は21.8%から25.1%へ拡大**

職種別認知率：日本

2022年



2023年



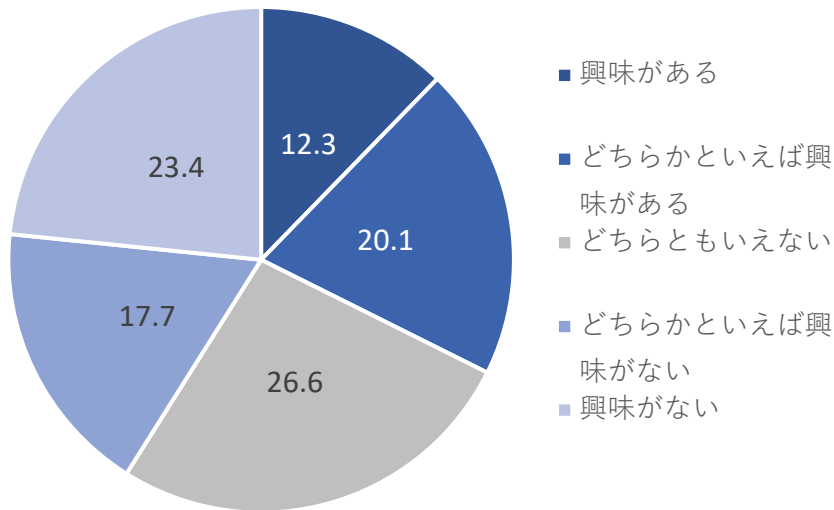
注) 2023年に合わせて性・年代別に均等割付にウェイトバックして計算

データサイエンティストへの興味

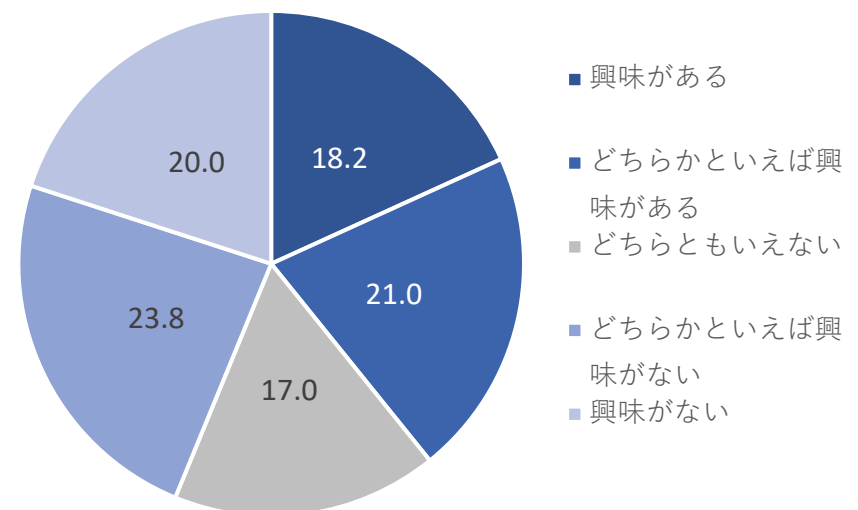
Q.あなたは、以下の職種に就くことに、興味がありますか。

**DSという職種に就くことに興味を持つ割合（認知者あたり）は
日本：32.4%、アメリカ：39.2%で、
日米間で大きな差は見られない**

《日本》



《アメリカ》



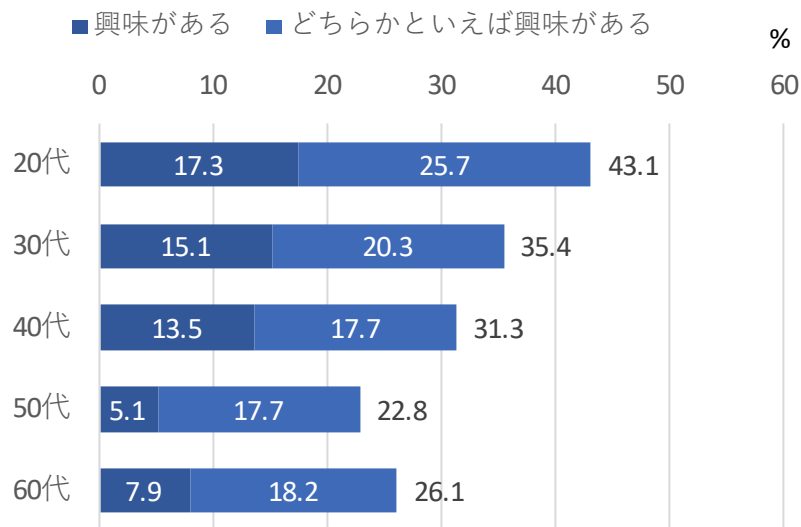
* データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

データサイエンティストへの興味（年代別）

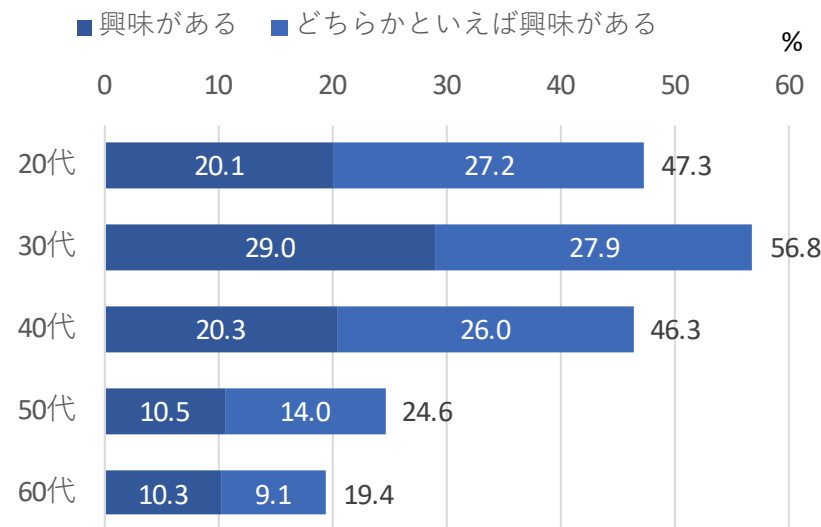
Q.あなたは、以下の職種に就くことに、興味がありますか。

**年代別でみると、日本とアメリカを比べると、
20代では、DSに興味を持つ割合に大きな差はない
（30・40代で大きな差）**

《日本》



《アメリカ》



* データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

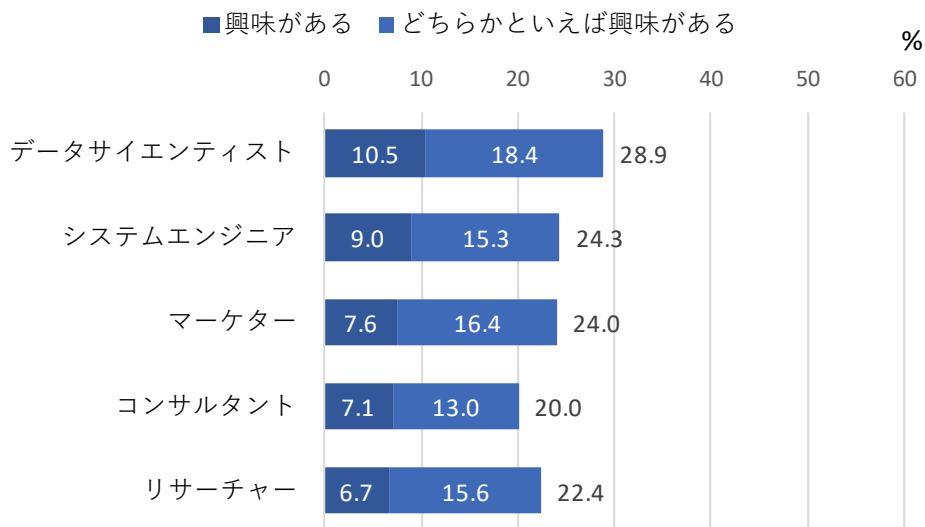
データサイエンティストへの興味 日本の時系列比較

Q.あなたは、以下の職種に就くことに、興味がありますか。

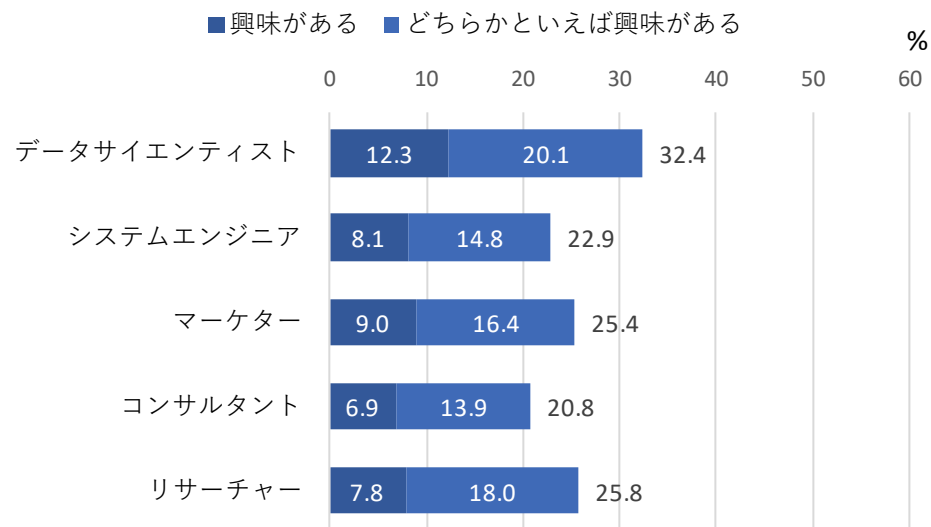
日本における2022年から2023年の傾向をみると、 DSへの興味は28.9%から32.4%へ拡大

職種別興味（認知者あたり）：日本

2022年



2023年



* 各職種について 知っている と回答した人が対象

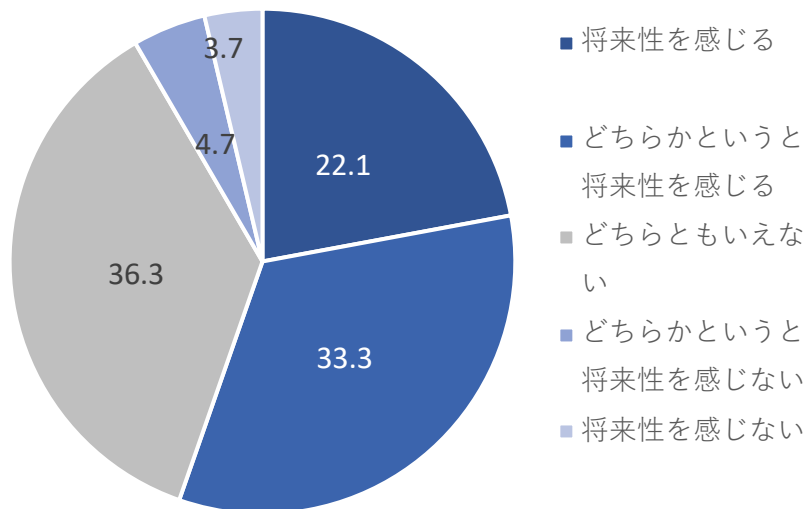
注) 2022年は2023年に合わせて性・年代別に均等割付にウェイトバックして計算

データサイエンティストという職種の将来性

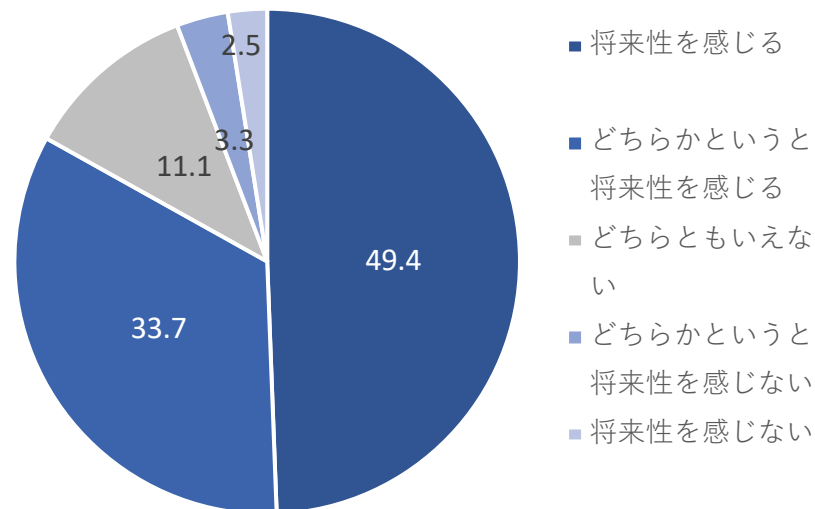
Q.あなたは、以下の職種に「将来性」を感じますか。

**データサイエンティストに将来性を感じている割合は、
日本：55.4%、アメリカ：83.1%**

《日本》



《アメリカ》



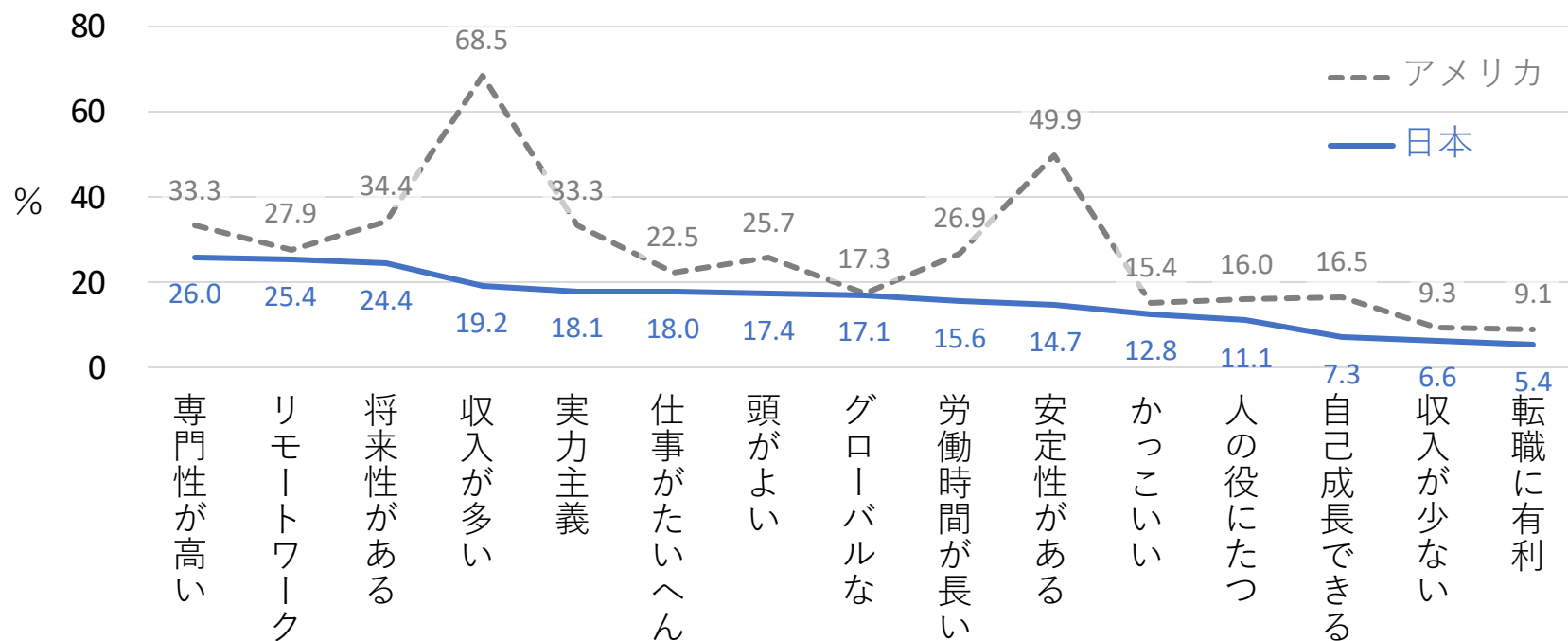
*データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

データサイエンティストのイメージ

Q.あなたは、以下の職種に、どのようなイメージを持っていますか。

データサイエンティストという職種のイメージとしては、アメリカでは「収入が多い」や「安定性がある」などが高い

データサイエンティストのイメージ：日米比較（認知者ベース）



* データサイエンティストについて 知っている と回答した人が対象

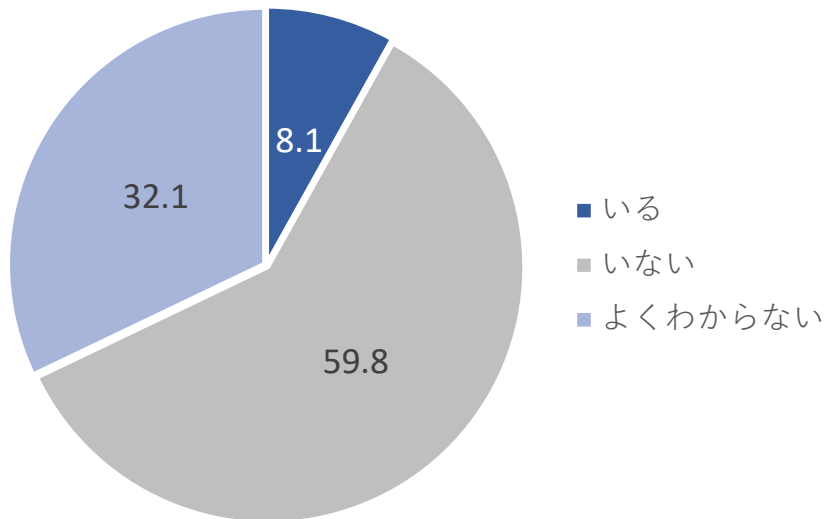
企業におけるデータサイエンティスト の位置づけ

会社内におけるデータサイエンティストの存在

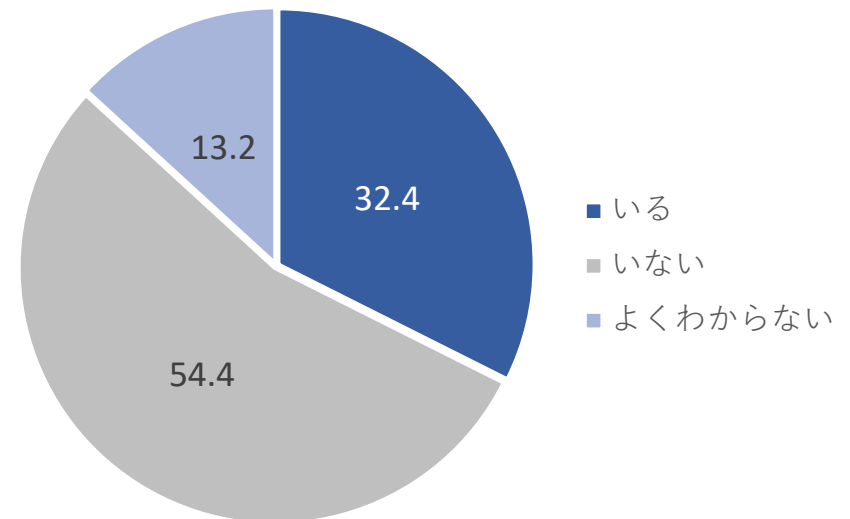
Q.あなたが勤めの会社では、以下の職種の人はいいますか。 : データサイエンティスト

自分が勤務している会社データサイエンティストがいると回答した人の割合は、日本 : 8.1%、アメリカ : 32.4%

《日本》



《アメリカ》

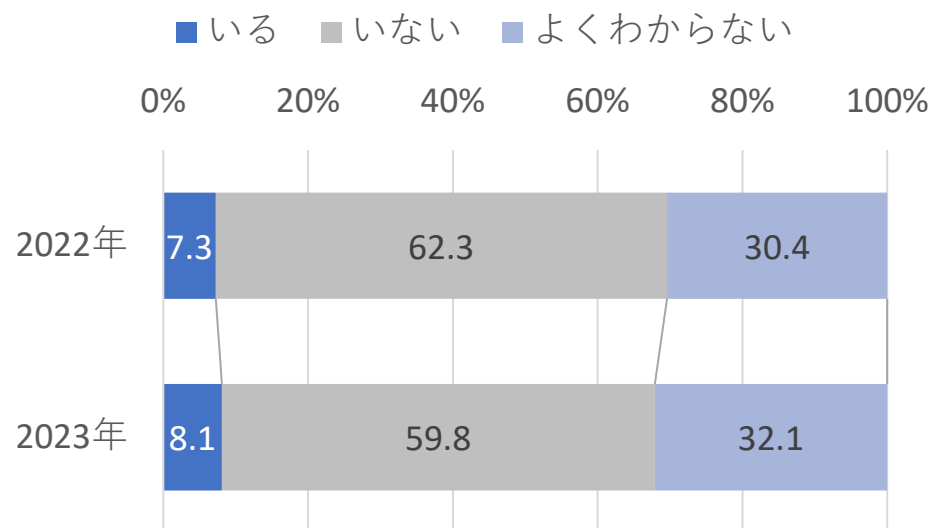


会社内におけるデータサイエンティストの存在

Q.あなたが勤める会社では、以下の職種の人はいますか。：データサイエンティスト

日本におけるDSの存在をみると、会社内における存在は、 2022年から2023年にかけて微増の傾向

日本：時系列



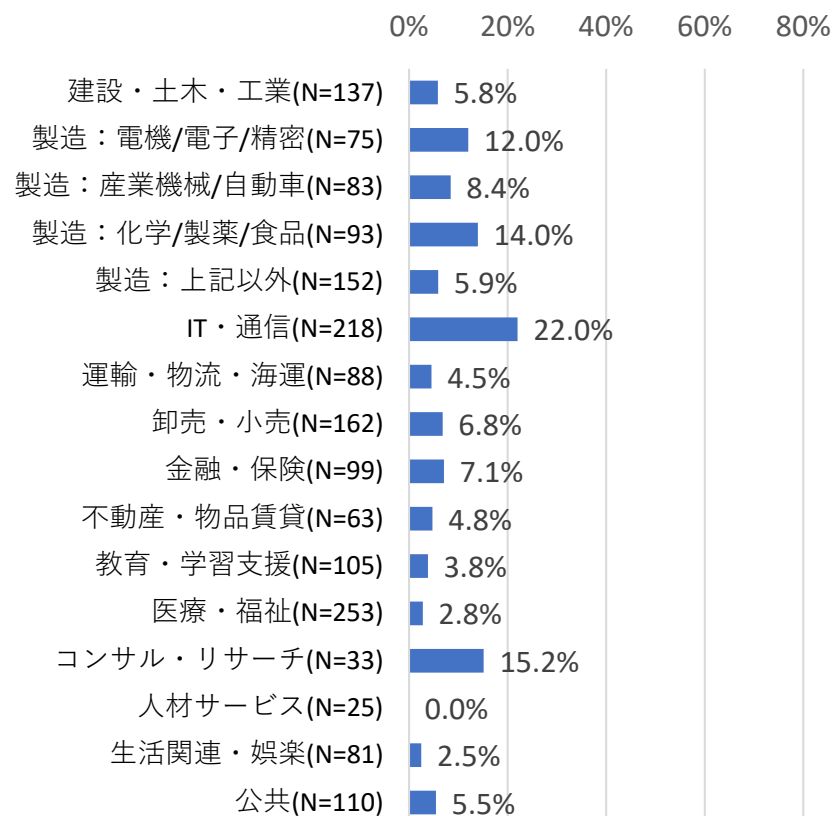
注) 2022年の結果は、2023年に合わせて性・年代別に均等割付にウェイトバックして計算

会社内におけるデータサイエンティストの存在 業種別

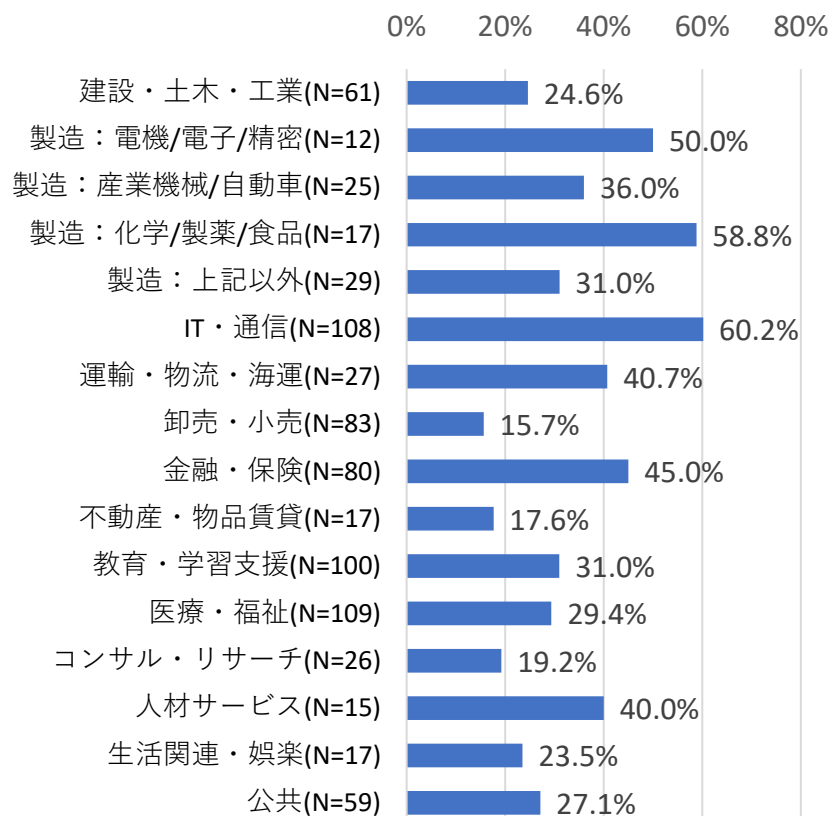
Q.あなたが勤める会社では、以下の職種の人はいますか。 : データサイエンティスト

アメリカではIT・通信業だけではなく、製造業、金融業でも多い

《日本》



《アメリカ》

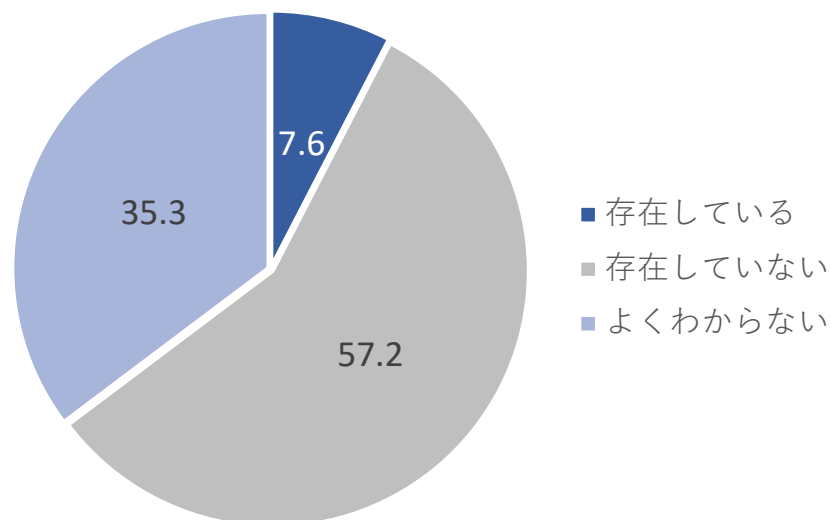


データサイエンティスト関連の組織の有無

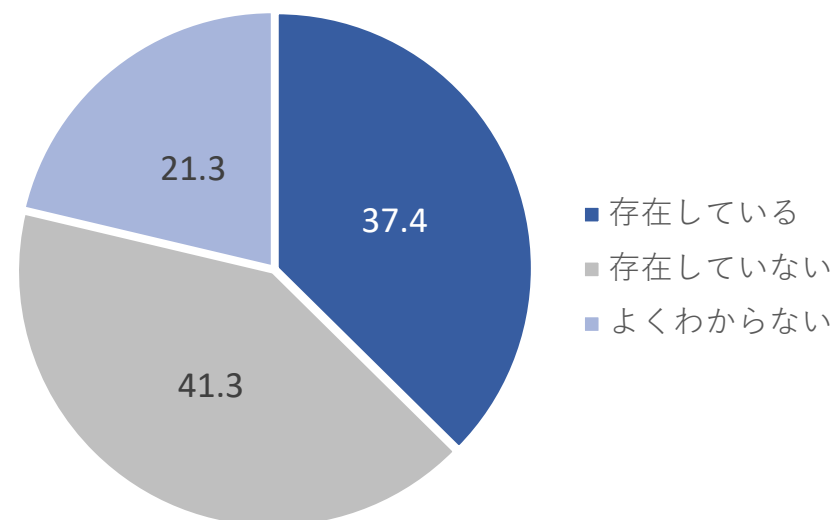
Q.あなたが勤めの会社では、「データサイエンス」に関する専門の部署やチームがありますか。

**自分が勤務している会社にデータサイエンスの専門部署がある
と回答した人の割合は、日本：7.6%、アメリカ：37.4%**

《日本》



《アメリカ》

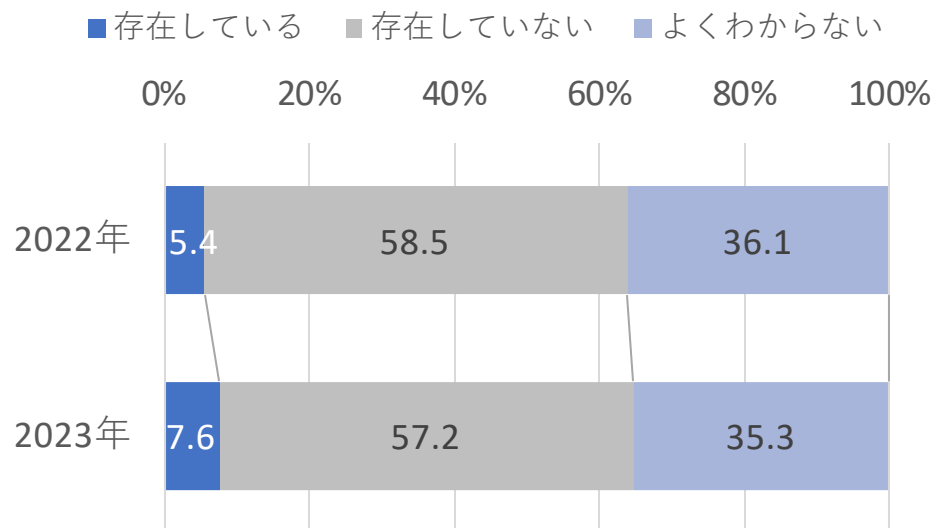


データサイエンティスト関連の組織の有無

Q.あなたが勤める会社では、「データサイエンス」に関する専門の部署やチームがありますか。

日本におけるデータサイエンスの専門部署がある割合も、 2022年から2023年にかけて微増の傾向

日本：時系列



注) 2022年の結果は、2023年に合わせて性・年代別に均等割付にウェイトバックして計算

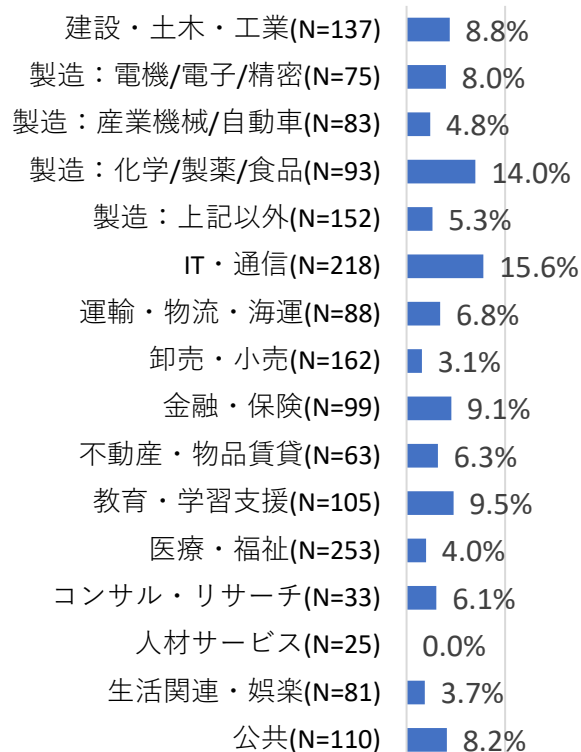
データサイエンティスト関連の組織の有無 業種別

Q.あなたがお勤めの会社では、「データサイエンス」に関する専門の部署やチームがありますか。

アメリカではIT・通信業だけではなく、製造業、金融業でも多い

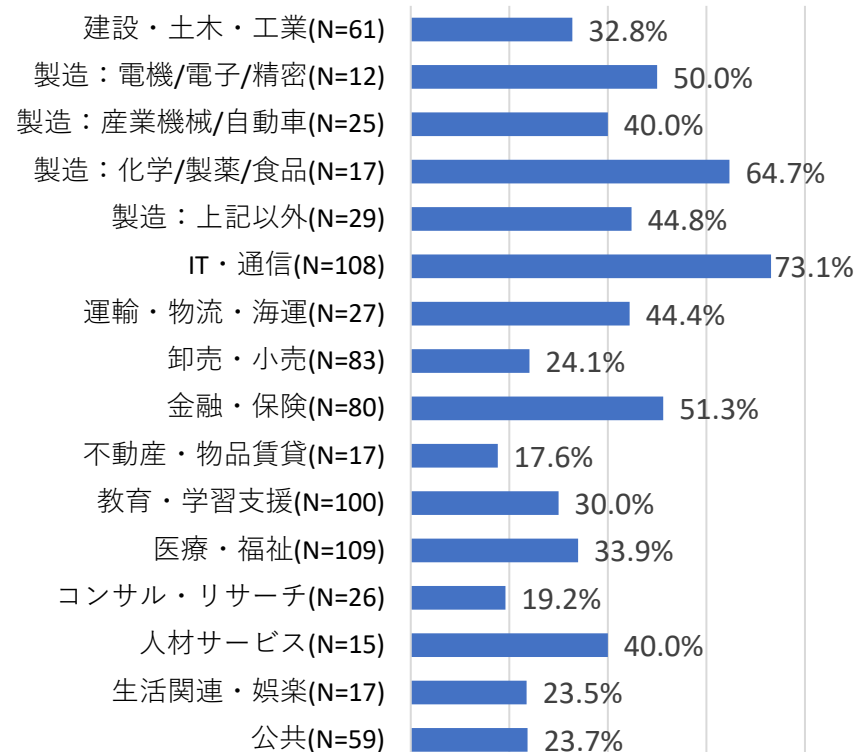
《日本》

0% 20% 40% 60% 80%



《アメリカ》

0% 20% 40% 60% 80%

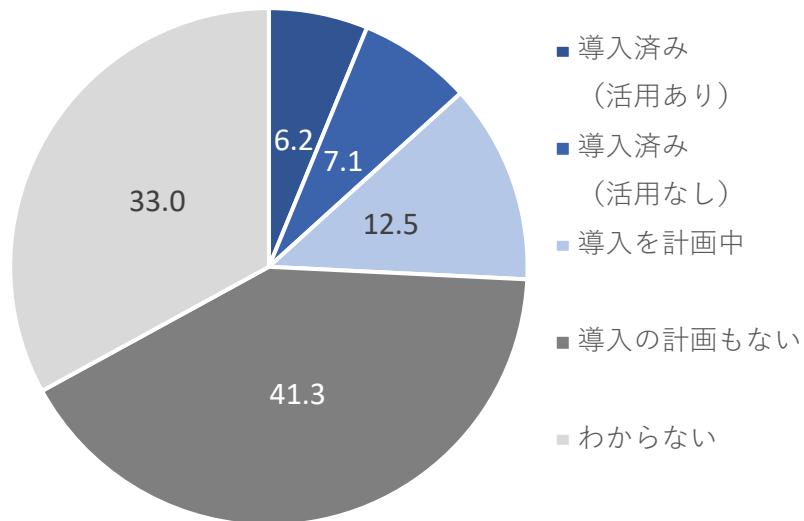


職場・業務におけるAIの導入

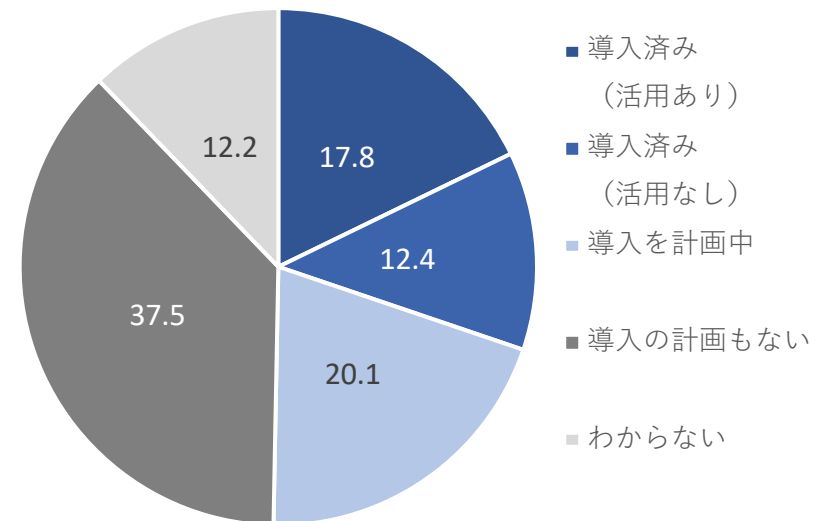
Q.あなたの職場では「A I（人工知能）」が導入されていますか。また、あなた自身は、業務で、そのA Iを活用（利用）したことはありますか。

職場におけるAI導入率は 日本：13.3%、アメリカ：30.2%

《日本》

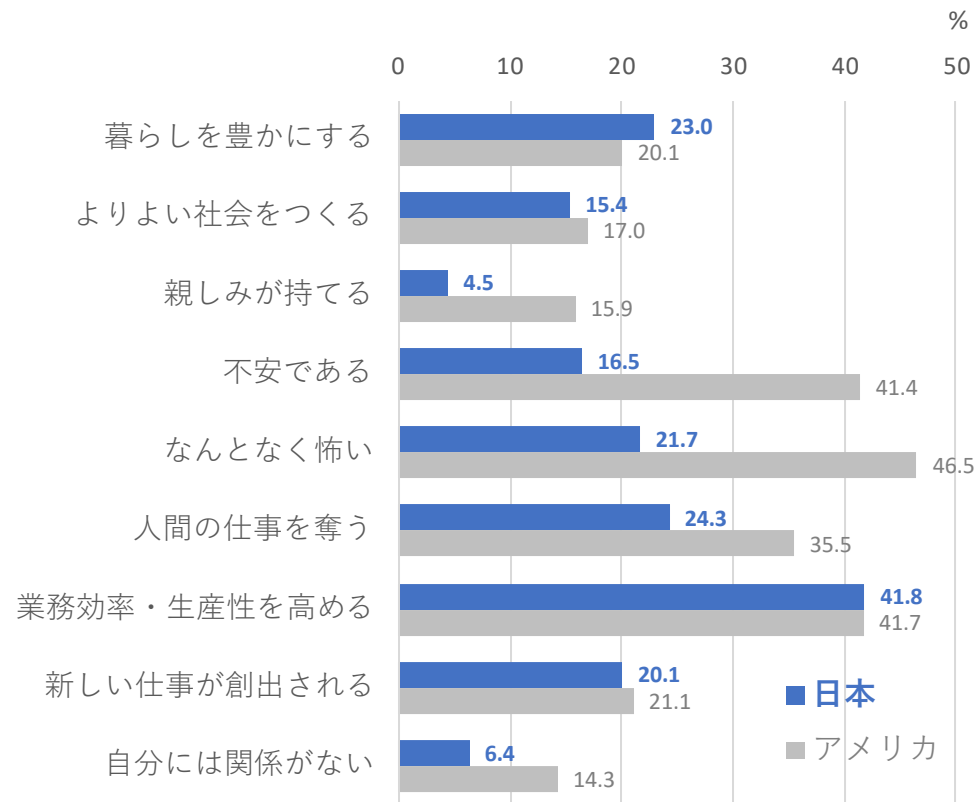


《アメリカ》



Q. 「A I（人工知能）」のイメージについて、あてはまるものお知らせください。

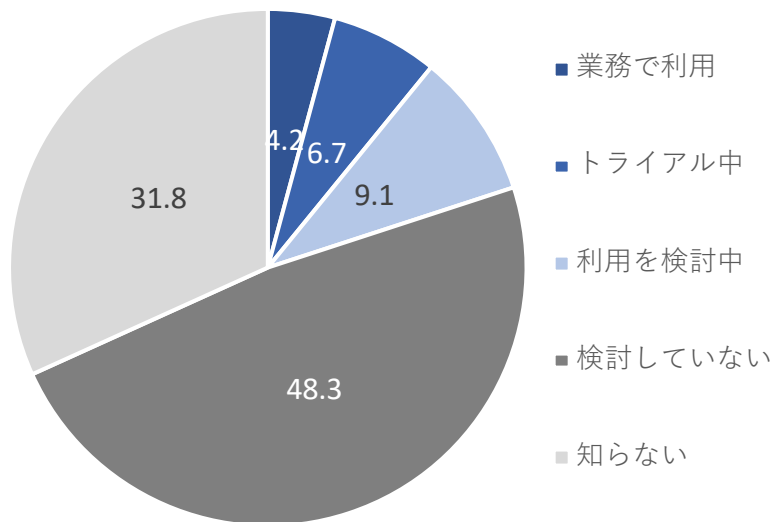
AIに対するイメージとしては、アメリカでは、「不安」や「怖い」などのマイナスイメージが強い



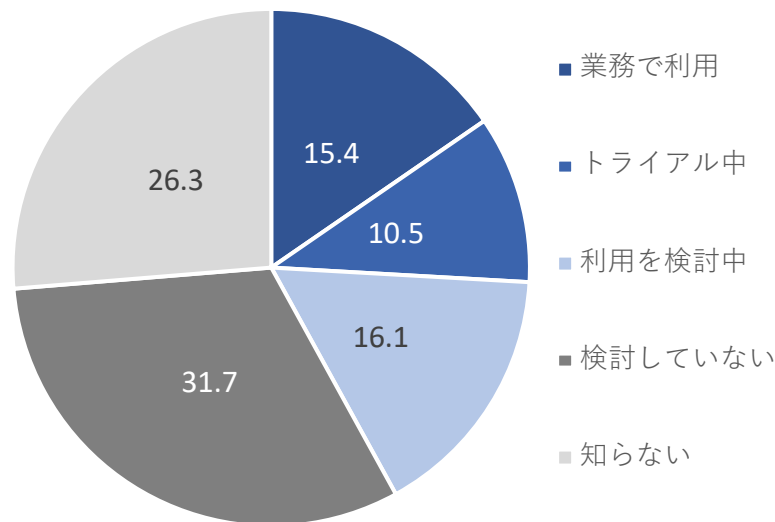
Q. 「生成 A I」のツール・アプリ・ソフトなどをご自身の業務で使っていますか。

生成AIのツール・アプリの業務での利用率は 日本：4.2%、アメリカ：15.4%

《日本》

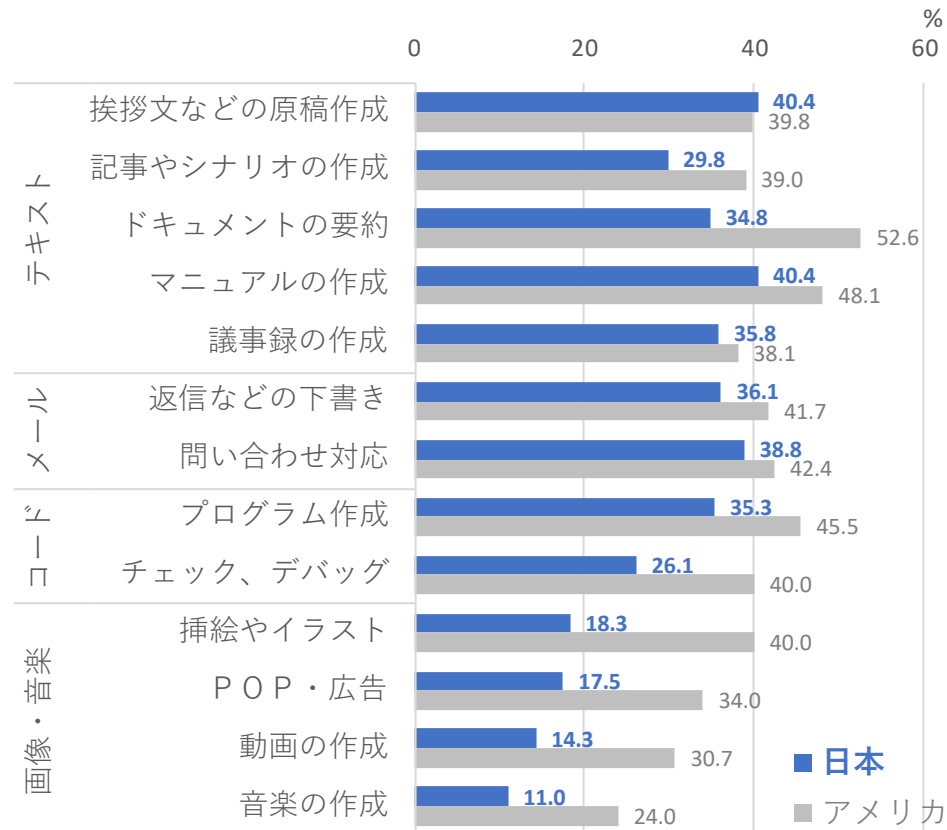


《アメリカ》



Q.どのような分野の「生成AI」が業務に導入できると思いますか。

生成AIの利用内容をみると、テキストベースの利用は日米間での差は少ないが、画像・音楽関連での利用で差がある



注) 生成AIを利用または利用検討の人が対象

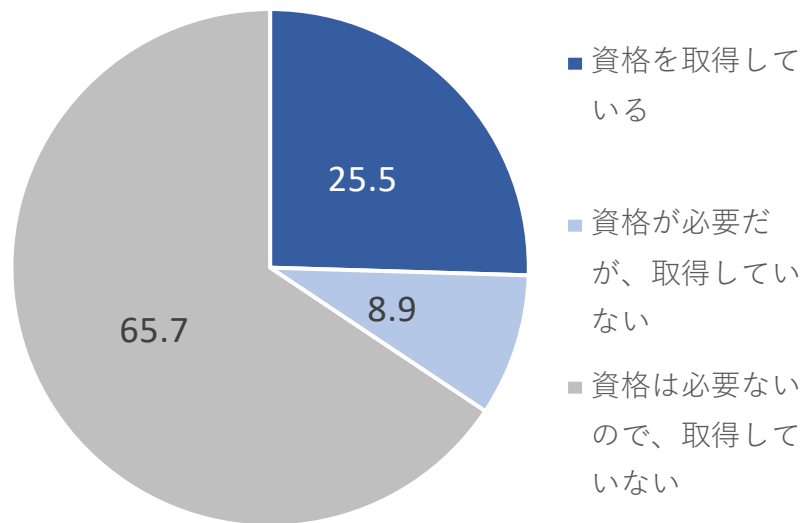
データサイエンティスト関連の スキル・資格の意識

業務に関連した公的資格の取得（一般就労）

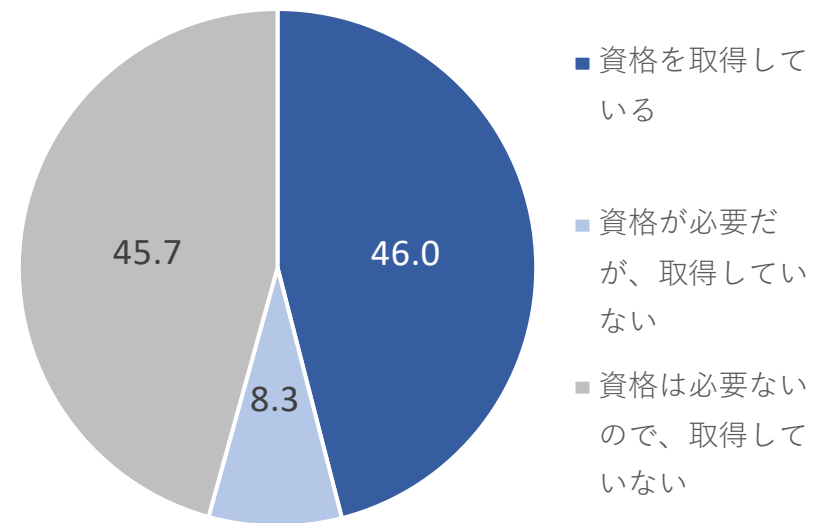
Q.あなたは、現在の業務に関連する公的な資格を取得していますか。

**業務に関連した公的な資格の取得率は
日本：25.5%、アメリカ：46.0%となっており、
アメリカにおける資格取得の意識が高い**

《日本》



《アメリカ》

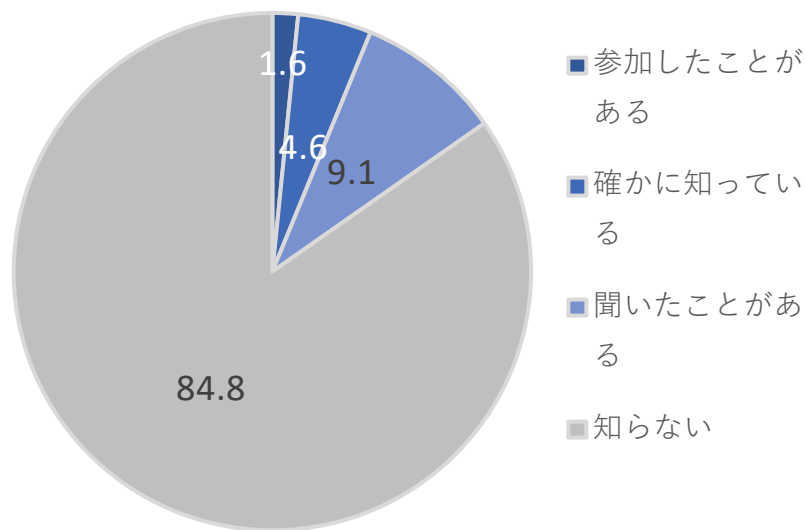


データサイエンスコンペティションプラットフォーム Kaggleの認知

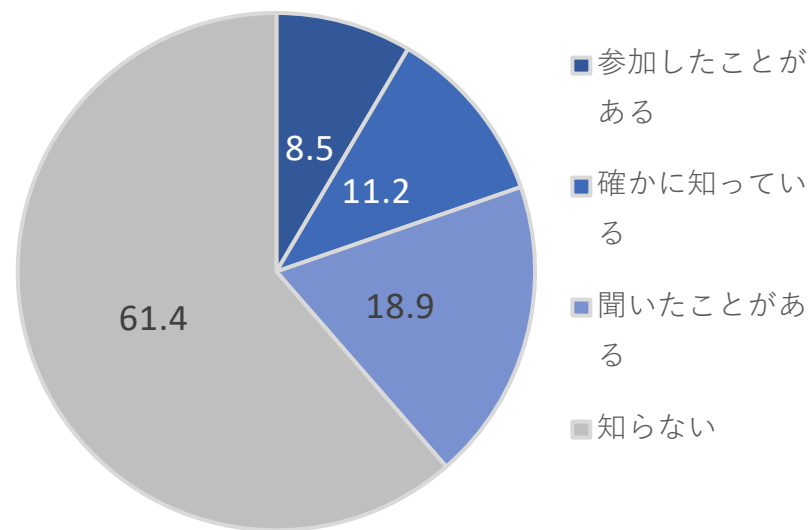
Q.あなたは、「データサイエンスコンペティションプラットフォーム k a g g l e (カグル)」を知っていますか。

**Kaggleの認知率（聞いたことがある以上）は
日本：15.3%、アメリカ：38.6%であり、
アメリカにおける認知率が高い**

《日本》



《アメリカ》



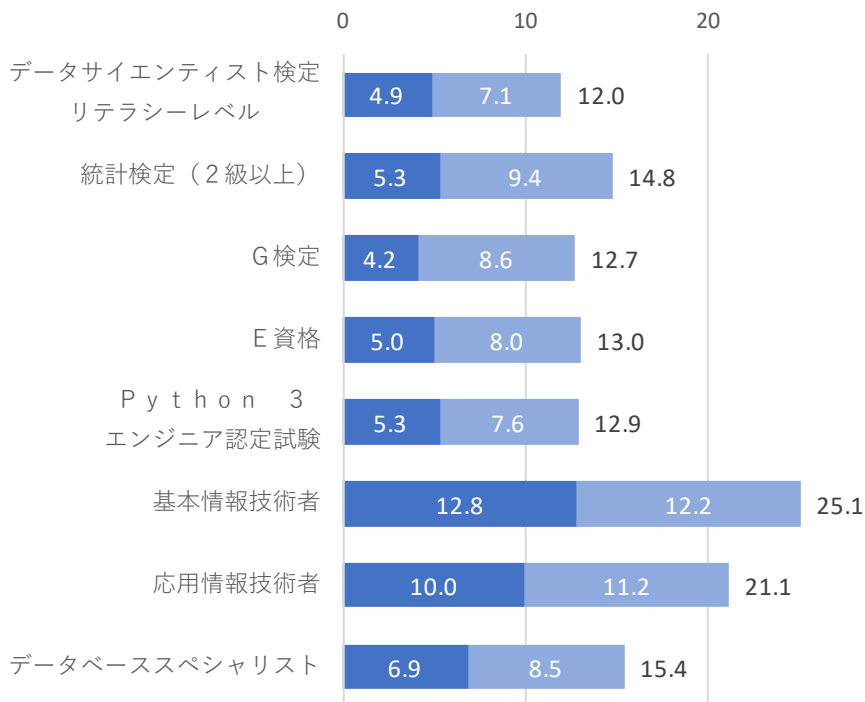
データサイエンスに関する「資格」の認知 時系列変化（日本）

Q.データサイエンスに関する以下の「資格」を知っていますか。

DS検定リテラシーレベルの認知率は12.0%から13.9%に

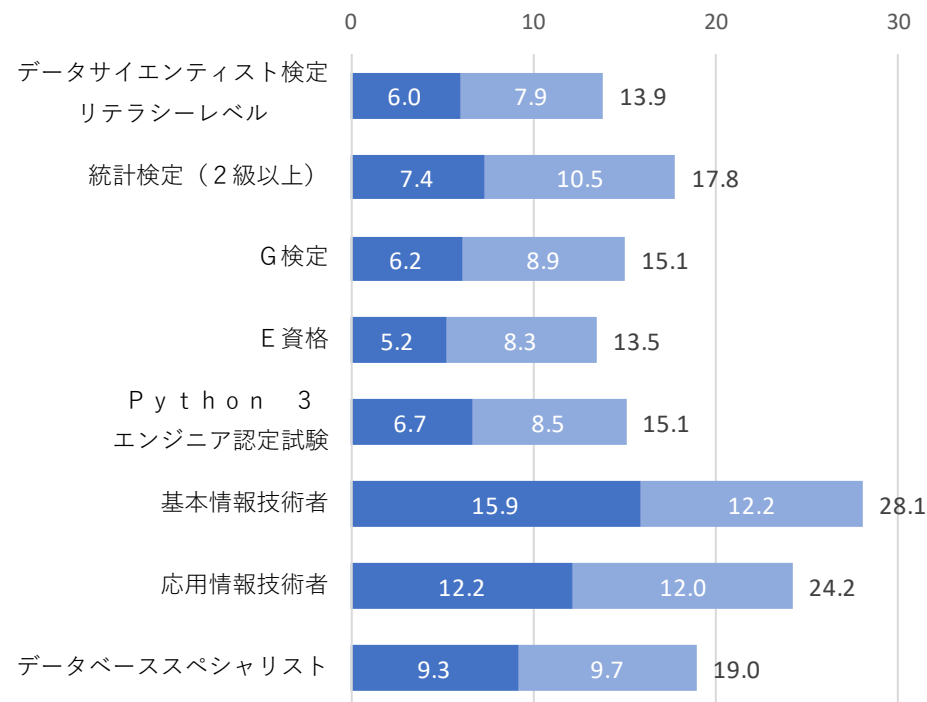
2022年

■ 確かに知っている ■ 聞いたことがある %



2023年

■ 確かに知っている ■ 聞いたことがある %



注) 2022年は2023年に合わせて性・年代別に均等割付にウェイトバックして計算

まとめ

まとめ①：データサイエンティストの浸透 アメリカは職種として浸透、日本も興味を持つ人は多い

アメリカでは、DSの認知が高く、実際に職場にいる割合も高い。
将来性のイメージは日本も高いがアメリカは80%超。
DSへの就労に対する興味は日本もアメリカ並みに高い。

データサイエンティストの浸透

	日本		アメリカ
認知	25.1%	《	63.6%
就労への興味	32.4%	≒	39.2%
職種の将来性	55.4%	《	83.1%
「収入が多い」イメージ	19.2%	《	68.5%
会社にDSがいる割合	8.1%	《	32.4%

まとめ②：日本におけるデータサイエンティストの変化 アメリカの水準には及ばないが徐々に拡大する日本

日本におけるデータサイエンティストの認知、興味は拡大傾向。
会社にはDSがいる割合、専門部署なども着実に浸透。
認知や業務イメージの浸透などを加速させることが重要。

日本におけるデータサイエンティストの変化

	2022年	2023年	増加分
認知	21.8%	25.1%	+3.3%
就労への興味	28.9%	32.4%	+3.5%
会社にはDSがいる	7.3%	8.1%	+0.8%
DSの専門部署がある	5.4%	7.6%	+2.2%
DS検定の認知	12.0%	13.9%	+1.9%

まとめ③：AIの導入

AI導入が進むアメリカ、ポテンシャルのある日本

仕事におけるAI導入率はアメリカが進んでいる。
導入率が高いこともあり、アメリカでは、マイナスイメージが先行しているが、日本ではポジティブに考えている人が多い。

		日本		アメリカ
AIの 仕事利用	AI導入率	13.3%	≪	30.2%
	生成AIツール利用	4.2%	≪	15.4%
AIの イメージ	業務効率を高める	41.8%	≒	41.7%
	暮らしを豊かにする	23.0%	>	20.1%
	不安である	16.5%	≪	41.4%